

市政報告



7月28日非核・平和行進 松永から尾道まで行進しました。

9月定例議会は、2012

(平成24)年度決算認定並びに教育委員の認定、固定資産税評価審査委員の選任、市道路線の決定、市職員の退職手当削減、東日本大震災被災者支援のため国民健康保険税及び住宅条例の改正、及び一般会計補正予算などを審議しました。補正予算の内容は、府中市民病院(元JA府中病院)建替への建設費用36億9千万円の債務負担行為(平成26・27年度の工事費)と今年度の病院改築費1千万円、解体工事費7千2百万円などです。

社会クラブは、一般会計決算認定では、①府中市の単年度決算は、民主党政権

発行者
小川 敏 男
水田 豊

府中市出口町 1076-4
TEL 41-7894

による地方交付税増額によつて赤字になった平成22・23年度以外はすべて赤字です。平成24年度も赤字になり、赤字体質からの脱出傾向がみえないこと。②民生費を削つて、投資に回す伊藤市長の財政運営に反対であり、福祉や住民の要望に予算を使うべきであること。③経常収支比率が前年度の92・6%から94・4%に悪化していること。経常収支比率は、財政構造の弾力化を示す指標で低いほど良く、悪化しているのは一般会計が硬直化していることの表れであること。④地方独立行政法人への単年度4億9千万円の一般会計からの繰り入れや、病院建て替え

に40億円ものお金がかかるにも関わらず、病院の今後の黒字化への具体的説明がないこと、また上下地区での医療の実態調査の住民要望にこたえない市長の姿勢などから反対しました。

市職員の退職手当削減は、最大400万円もの減額となり負担が大きすぎることで、また職員にばかり負担を押し付け市長自らの報酬・退職金の削減にはなんら言及していませんので反対しました。

なお9月議会初日、市役所耐震補強工事の請負契約先が約5億3千万円で武田組の府中支店に決まりました。

お願い

申し訳ありませんが、あて先・お名前など間違っていましたらご連絡ください。

電話・FAX

小川 43-4616
水田 62-4575
62-4585

地方独立行政法人府中市病院機構

業務実績・決算報告

初年度4億4千万円赤字 府中市が4億9千万円補てん
 府中市病院機構の昨年度実績（決算）が議会に提出されました。それによると2病院合せて、4億5千万円の赤字で、市の一般会計から4億9千万円の補てんを行なっています。

2012年度 各病院の収支状況

	府中市市民病院（府中）	北市民病院（上下）	合計
収入	20億2,190万円	9億8,922万円	30億1,112万円
支出	21億7,647万円	12億8,116万円	34億5,763万円
収支	▲1億5,457万円	▲2億9,194万円	▲4億4,651万円
		市の補てん	4億9,000万円

病院の赤字	府中市市民病院（府中） 旧JA府中総合病院	北市民病院（上下）	
	2011年度	4億9,257万円	3億5,258万円
	2012年度	1億5,457万円	2億9,194万円
	改善	3億3,800万円	6,064万円

評価すべき

北市民病院の赤字縮小
 北市民病院の赤字は、6千万円縮小しています。法人経営になり、北市民病院の常勤外科医は府中病院に異動し、マムシに咬まれても診てもらえない、一般外科手術ができない、ベッド数も85床から70床に減らされたなかでの実績です。ひとえに、院長はじめ医師、看護師、病院スタッフの全員の努力のたまものであり、また医療過疎地域での地域住民の命と健康を守るうとする病院と地域住民が協力した結果だと云えます。

がんばっている病院を
 さらに縮小

しかし、伊藤市長の評価はそこではありません。赤字の額だけを問題として「北市民病院の病床の見直し」を議会で答弁しました。さらなる北市民病院の縮小を推し進めようとしています。独法化が地域住民のためではなく単なる縮小再編と上下地域の切り捨てだということがだんだんと明確になってきています。

府中市市民病院（元JA病院）
 の建替えに40億円

4億9千万円の赤字を出していたJA府中総合病院を府中市がかかえました。それだけでも大変ですが、古い病院の建替え費用も府中市が出します。病院の建て替えは医療機器を除いて約40億円もの費用がかかります。みなさんご存知でしょうか。40億円のうち、府中

市が単独で負担する費用が約20億円。そのうち4億円を今年度の一般会計から支出し、残り16億円は市が借金します。返済は通常、3年据え置きで4年目から17年かけて返済する計画です。病院事業を桜が丘の二の舞にしないために必要なこと

建設費用だけで約40億かかる大事業です。それに加えて、初年度の赤字補てんが4億9千万円（北市民病院含む）、更に今年度の予算でも3億8千万円の赤字補てん予算が組まれています。市長は、4年の中期計画の間

は、年間3億円の赤字補てんはやむを得ないと答えています。4年の中期計画だけで、14億3千万円の赤字補てんが見込まれます。建設事業に40億円プラス4年間の赤字補てんが14億3千万円。たすと54億3千万円の巨費がこの地方独立行政法人事業に費やされるのです。

全市民が参加してどのような病院にすべきかの議論を

古い病院が建替えられて新しくなったら病院経営が改善するかといえませんが、JA厚生連が手放した病院を同規模、同内容で経営するのは、JA時代の経営をきちんと総括し、明確な方針が必要で、毎年3億円の赤字補てんが続き、黒字化がみこめないのであれば将来へのツケを残さないためにも、財政的に採算のとれる規模、採算のとれる機能の病院にすべきでしょう。

10年で完売すれば5億円の利益が市に入ってくるという進めた桜が丘団地事業は、販売不振のため新たに市民の税金を7億6千万円もつぎ込みました。病院建替えも市民参加できちんと議論することが、桜が丘団地の二の舞にならないために必要なことです。

2012年度決算を検証してみます。まず、2012年度予算の特徴を府中市は「府中市
民病院機構に約4億円を支援」と、北市民病院とJA府中総合病院を統合してできた新病院
への支援と説明していました。前年度の2011年度予算も「将来の病院の建替えを控え、
地道に力をためる予算」と説明していましたから、2年連続、新病院支援予算と言えます。
そうした目標があるにもかかわらず9月議会で発表された2012年度決算は、実質単年度
収支が赤字となり、病院支援、病院建設の先行きに黄信号がともることになりました。

蓄えが不十分

「病院の建替えに向け
て、地道に力をためる予
算」とは、苦しい台所事
情の中で貯金を増やし、
新たな借金を抑え、将来
の財政負担に備える財政
運営を行なうことです。

普通、家庭でも家を建

区 分	2008	2009	2010	2011	2012
	(H20)	(H21)	(H22)	(H23)	(H24)
地方債残額	2,648,617	2,605,033	2,658,095	2,577,380	2,540,475
基金残高	146,006	95,140	149,615	179,602	189,668
経常収支比率%	98.7	99.1	91.9	92.6	94.4

てる場合は、まず貯金を
して、銀行からお金を借
りて家を建てます。

その貯金が積立金(基
金)です。上の表のよう
に、府中市の場合、財
政調整基金は約19億円
(18億9668万円)です。
基金の目安は歳入総額
(予算規模)の1割と言わ
れています。府中市の歳
入総額は約200億円で
すから20億円ぐらいが目
安となります。

この貯金は一年間のや
りくりのためにもっておか
なければいけないもので
本来使うべきものではあ
りません。そのため各自
治体では別に特定目的基
金をつくって貯金をしてい
ます。

目的基金もなし

たとえば人口3万7千人
の岡山県の備前市は、基
金総額は56億円、内訳は
一年間のやりくりのため
の財政調整基金22億円、
借りたお金を返す目的の
減債基金6億円、合併後

10年目から地方交付税が
減額されるのに備えて15億
円、病院建設などに向け
て13億円となっています。
歳入総額は192億円、経
常収支比率は89.3%です。
これが将来に備える財政の
第一歩です。

ところが府中市は、基
金総額は21億円、内訳は
財政調整基金が約19億円、
減債基金253万円、地方
交付税減額や病院建設の
ための特定目的基金はあ
りません。

税収が不安

さらに、問題は市民税の
減収です。下の表を見てく
ださい。市税は法人市民
税に左右されていますが、
減収となっています。個人
市民税は最低税率を5%か
ら10%に上げたり、16歳
未満の者に対する扶養控
除をなくしたりして増税
してきましたが2009年
度と比較すると減収となっ
ています。今後は、固定
資産税の減収の上に、年金
生活者が増え、働く25歳

から35歳の若い層が転出し
ていることなどから個人市
民税も減収見込みです。基
金という備えがなく、借金
である地方債残額がさほど
減っていない2012年度決
算は病院建設に暗い材料を
与えることになっています。

年 度	2009(21)	2010(22)	2011(23)	2012(24)
市税	56億7932	53億3704	54億6931	53億2882
内訳*個人市民税	18億7600	15億9637	15億5146	16億3609
*法人市民税	2億8823	3億2303	5億3837	4億8612
*固定資産税	27億1481	26億2968	25億7261	24億2924

私が法律？伊藤市長の答弁 教育委員会の委員の任命

府中市教育委員は、人格が高潔で、教育、学術及び文化に関して見識を有する者のうちから、議会の同意を得て市長が任命します。また府中市教育委員会は5名の委員で構成されて、任期は4年で再任されることあります。

教育行政の組織及び運営に関する法律第4条第3項に「委員の任命については、そ

のうち委員の定数の二分の一以上の者が同一の政党に所属することとなつてはならない」と定められています。

そこで、任命される方の所属政党を調べたのかと質問すると市長は調べていないと答弁しました。市長が言うには「この方がどういう方かみなさんよくご存じの方を選んでおり、政治的な偏りのある

方は最初から選んでいない。浮世の義理で頼まれて党費を払って1年間（ある政党に）入るといふことはあるわけです。私にもあるわけです。この法律の規定は偏つた人を選ぶなという趣旨であつて『調べよ』と解していない。形式的に何党ですかという風に解していない」として法律の条文に明文で書いてあることを

調べていないと堂々と答弁しました。

これは市長である自分が法律を解釈するんだという法治を軽視した態度です。

□上下ー府中間の利便性の向上は急務

上下ー府中間のJR、バス、道路の整備が急がれる。合併して10年経つが、上下府中間の距離は縮まるどころか広がる一方の様な気がする。市役所での各種会議、町内会、民生児童委員、社会福祉協議会などの会議はほとんど府中市内で開催される。そのたびに上下町の間は府中市内中心部まで出て行くことになる。JRやバスといった公共交通、道路の実態がどうなっているか、旧府中市民のみなさんの関心は薄いと言わざるを得ない。

アリの穴から堤も崩れるといひます。一時が万事、市長の思つがままがまかり通る府中市政の今後の行く末が案じられます。

広島行き的高速バスも含めて右岸道路を経由するため、出退勤時間には、右岸道路を通過するのに1時間近くかかるという大渋滞になった。病院の再編問題で、府中市民病院（元のJA府中総合病院）に來ればいいではないかと市長は言うが、このようなありさまでは不安である。まして時間が勝負の救急患者なら府中市民病院に頼れない。

○がんばれ公民館活動○

決算審議の中で公民館の活動費について質問しました。「公民館事業費は6308万円、その内の施設整備事業費174万円を引いた6134万円が実質の公民館活動費となっている。この公民館活動費は年々減少しているようだけど、各公民館の運営に支障は出ていないのか。公民館の予算は『報酬』『報償費』『需用費』という組み方のようなのだが、需用費は5万円あったのが4万円に、そし3万円になっている公民館もある。プリンターのインクカートリッジは3000円ぐらいする。3万円の需用費ならインク代もこと欠くのではないか。もともと少ないのに無理をさせていることはないのか。」

【答弁】「その年々の営繕工事の状況によって予算は左右される。ここ数年で大きな増減はなく、各公民館の運営に大きな影響は出ていない。印刷物は公民館のものを利用してもらっていたが、用紙は各団体で持ち込んでもらって、講師謝礼は受講者の負担をお願いしており、受益者負担で自助努力をしてもらっている。」

公民館は全体で17館あり、主事がおられる公民館は14館、主事のみなさんの奮闘で公民館は地域の生きがいの場となっています。

年度	総事業費	施設整備事業	実質公民館事業費
2010	6836万円	- 3447万円	= 6492万円
2011	1億1848万円	- 3009万円	= 8838万円
2012	6308万円	- 174万円	= 6134万円

府中市上下間のJR、バスはともに1日5便、道路にいたっては雨がふるたびどこかが崩れ対面通行になる。8月末の雨で486号線が崩れ1週間以上全面通行禁止になったことは記憶に新しい。

道路の整備も、市は県に要望していると答弁したが、スピード感が大切ではないか。またJRへの増便も県へ要望する際に府中市の意見も集約することのだが、住民の意見を聞き、直接JRに要望するなど市のやる気を住民にみせていただきたい。